

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 臨床・健康教育学系

氏 名 藤井 和子

研究期間 平成30年度～平成31年度

(令和元年度)

研究プロジェクトの名称	「特別支援教育における多職種連携に基づく個別の教育支援計画作成・支援会議の実践的検討ー多職種との連携による学習会を通してー」
研究プロジェクトの概要	<p>現在、学校では、発達障害や不登校等の他、日常的にたんの吸引や経管栄養等の医療的ケアを要する児童生徒の在籍も増加している。これら多様な特別の教育的ニーズを持つ児童生徒が、学校卒業後生涯にわたって学び続け、地域の中で生活する主体となっていくためには、担任教師、養護教諭、学校看護師等の校内教職員間の連携の他、保健師・看護師、ICT支援員等医療・福祉、工学等の外部の専門家との連携に基づく教育が欠かせない。本研究プロジェクトは、「チーム医療」の蓄積を有する新潟県立看護大学や地域の多職種専門家との連携に基づく学習会の実践を通して、多職種連携による個別の教育支援計画作成や支援会議の方法の開発に関わる検討を行うものである。</p>
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>学習会を実施していくプロセスにおいて、看護大学及び NPO 法人親子の未来を支える会との共同研究、特別支援学校における医療的ケア児の学習会環境整備、上越市共生まちづくり課及び上越市社会福祉協議会との連携による「福祉・介護・健康フェア」「教育コラボ学び愛フェスタ」の開催が実施され、研究期間の2年間において、既に研究成果が学校や地域に還元された。</p> <p>学校の教員、医療・福祉・工学の専門家といった多職種による学習会を実施し、多職種による意見交換の場を設定したことで、学習会の参加者がその後もつながり、教育現場の課題を解決する同僚性が築かれたのではないかと考えられた。</p>
研究成果の発表状況	<p>①日本特殊教育学会第57会大会（2019年9月21日）にて発表 「医療的ケア児を担当する教員における健康に関する学校体制づくりの意識」高地朋見・藤井和子</p> <p>②臨床教科教育学会主催 第18回臨床教科教育学セミナー2019にて発表 「高度な医療的ケア児に対する就学支援の実際～保護者の付き添いなく学校で人工呼吸器管理を実施した過程～」</p> <p>②は、共同研究者である看護大学教員及び NPO 法人親子の未来を支える会による研究発表である。</p>
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>研究成果の概要において示したもののほか、特別支援学校における多職種連携による校内研究会の開催、研究代表者の校内支援会議への参画等が実現した。校内支援会議における個別の教育支援計画活用について検討された。また、学校支援プロジェクトにおける学習を深化させる機会の提供や障害のある児童生徒の教育課程の編成にかかわる授業の改善につなげることができた。</p>